

1. 主屋 西妻土台の取替

土間台所部西妻の土台は、栗材で、幅6寸3分、厚4寸、長さは通して15m余りある。

土台の仕口は、南端の女中部屋隅部は留め、北端の井戸屋形隅部はホゾ差しとなる。

中古に井戸屋形境より南に2.5m程を入替えたほかは当初材が残り、土間部分は中古の切り接ぎ材を除き、4材延べ約8.5mをあらかじめ繋いで据え置いている。

写真は土台下端の継手の状況で、箱目違付きの被せの竿シャチとなっている。



2. 主屋 井戸屋形部の曳家

主屋の井戸屋形・土間境の桁（土間台所部軒桁）は大きく蟻害を受けており、取替える必要があった。しかしこの桁には上屋梁が載っており、また井戸屋形桁も取り付くため、取替えるのは容易ではない。この桁を取り替えるために、井戸屋形を60cm北へ曳家することにした。

井戸屋形桁の鼻栓を抜き、土台下にコロを入れてレバブロックで曳くと、井戸屋形は本屋より離れてゆっくりと移動した。写真は土台に帯を掛けて引っ張っている状況。



3. 主屋 井戸屋形桁の取外し

井戸屋形を曳家した後、いよいよ土間・井戸屋形境桁の取り外しに取りかかった。幸いというべきか、この桁を受ける両端の柱は、中古の時代に根継修理されており、この根継部分を外すことで、桁を柱ごと下へ落とすことが可能であった。

桁に載っている上屋梁をジャッキで受け、土壁を壊さないように慎重に桁を柱ごと抜き下ろした。桁の取り外しは順調に終わり、現在は土台取替材の加工に取りかかっている。

